

2021 年 一橋大 予想模試④ 概評

出題分析		
試験時間 120 分	配点 学部により異なる	大問数 3 題
分量 (昨年比較)〔減少 <span style="border: 1px solid black;">同程度</span> 増加〕		難易度変化(昨年比較)〔易化 同程度 <span style="border: 1px solid black;">難化</span> 〕
<p>【概評】</p> <p>今回の予想模試の大問 1 も古代から近現代にかけての問題構成にした。おそらく御家人の窮乏化については典型問題で答えられる受験生も多かっただろうが、京都における自治組織の説明はあまりなじみが無いかもしれない。また「ミッチーブーム」というあまり学校では習わない問題も出題してみた。さらに大問 2 ではグラフを出題した。直近でグラフが出題されたのは 2018 年であり、そろそろ出題されてもおかしくない。特に物価動向のグラフや軍事費のグラフ・人口動向のグラフは特に近代以降について重要であり、資料集でよく対策しておくことが望ましい。また、近世についてのグラフに関しては一揆の増加や幕末の開港以降の物価動向のグラフが頻出であろう。そして注意してほしいことが、グラフが出題された場合、年号を覚えておかないと答えることが厳しいような問題(1997 年 第 2 問など)も出題されるため、年号も軽んじずに覚えてしまうこと。また一橋日本史の大問 3 では戦後の民主化についての出題が非常に多い印象を受ける(特に民法と刑法の改正)。</p>		

設問別講評			
問題	出題分野・テーマ	設問内容・解答のポイント	難易度
I	御家人の窮乏・中世後期の京都の自治組織・隣組と回覧板・ミッチーブーム	<p>大問 1 は今回も古代・中世から近現代にかけての横断的問題にした。問 1 は御家人の窮乏化について。ここで注意すべきであるのは「多面的」というキーワードだ。つまり、真っ先に思いつく元寇のみでは減点を食らうだろう。鎌倉時代では輸入された銭によって貨幣経済も成長し始め、代銭納も起こったことで各地の産物が「商品」として出回ってくる。そしてそのような貨幣経済は人々に富を提供する一方で、失敗して損をするリスクも上がる。それが御家人の窮乏化につながった。さらに惣領制の下での分割相続による所領細分化も重要。<b>やや難</b>。問 2 は中世後期の京都の自治に関する問題。「両側町」「町組」「惣町」というキーワードは押さえておこう。教科書にも章の最後の方に掲載されていて見逃してしまう箇所だ。<b>やや難</b>。問 3 は総力戦体制期の末端組織についての問題。隣組に関してはその役割を問われる可能性もあるので注意。<b>易</b>。問 4 は奇問。ミッチーブームという言葉始めて聞いた受験生も多いと思う。ただし、ミッチーブームによるテレビ普及の拡大は高度経済成長を支える大衆消費社会へとテイクオフを果たす要因ともなったため日本経済史的には重要である。<b>難</b>。</p>	やや難

<p>II</p>	<p>大戦景気における文化的発展と社会運動の激化・箕面有馬電気軌道・賃金高止まりの背景</p>	<p>大戦景気に関する問題構成。大戦景気による都市大衆化は日本の文化・社会経済に多大に影響を及ぼした。2019 年の大問 2 でも終始、大戦景気から大正期にまつわる問題が出題されたことから一橋日本史が大正期を重視していることがわかる。問 1 は文化的影響を答えさせる。2019 年にも出題された「都市中間層」が答えられるかどうか。また、「第 2・3 次産業」や「職業婦人」、「洋風化」にも触れておきたい。また「大正デモクラシー」も入れればベスト。標準。問 2 は社会運動の活発化の背景を問う。グラフを見れば、実質賃金の低下には気付くだろうが、そのほかの社会状況にも多分に影響を受けている。ここでも大正デモクラシーが重要で、多くの社会運動の共通理念として普通選挙の実現があったことをおさえておこう。また、都市化により重工業も拡大していたことで男性労働者が増加していたことも、そのような運動を誘引しやすかったといえる。やや難。問 3 は小林一三の創設した会社名を問う。おそらくあまり聞きなれていない言葉だと思う。乗客確保のために彼が行ったターミナルデパートや宝塚などの娯楽施設を伴う多角経営は都市化を加速化させた。鉄道業は関連産業を伴うことから経済発展に多大な影響を及ぼすことを抑えておこう。やや難。問 4 は奇問。ただし、労働運動の増加を思い浮かべれば最低限は答えられたか。難。</p>	<p>やや難</p>
<p>III</p>	<p>高野岩三郎の功績・最後の国定歴史教科書と教育体系の変更・内務省解体・民法改正</p>	<p>戦後の民主化についての問題で、一橋日本史で出題されやすい範囲である。2019 年の大問 3 では議会の民主化についての問題が出題されたが、今後議会以外の民主化について問われる可能性もある。問 1 は高野岩三郎の戦前の活動について問う問題でやや難しい。彼は日本最初の労働者家計調査、いわゆる国勢調査を実施した人物であり、日本における社会統計学の先駆者である。用語集に記載あり。やや難。問 2 は「くにあゆみ」を答えさせる問題。「くにあゆみ」は使用された期間は短い、軍国主義から科学的・民主的な記述への転換を図ったものである。また、教育体系の変更については調べられる限り一橋日本史ではまだ出題はないが、今後のために覚えておこう。端的に言えば教育の機会均等・男女共学を原則とする教育基本法と六・三・三・四制による単線型の教育体系を採用した学校教育法だ。やや難。問 3 は内務省の廃止についての問題で重要事項。大久保利通が初代内務卿を務めた内務省は主に地方官吏の人事権の掌握・治安維持の役割を果たしていた。ちなみに新警察法の制定によって国家地方警察と自治体警察は廃止され、警察庁指揮下の都道府県警察からなる国家警察に一本化されることになる。標準。問 4 は民法の改正について。端的に言えば従来の戸主権の強い家制度の解体である。2012・2001 年に出題されている。民法については戦前の民法典論争についてもおさえておこう。過去問をやりこんでいれば容易に答えられるであろう。易。</p>	<p>標準</p>